

研究課題名	<p>2017-035</p> <p>伸筋腱中央索損傷の機能予後に影響を与える合併損傷についての検討</p>
実施責任者	<p>名古屋掖済会病院 整形外科 医長 藤原祐樹</p>
研究の概要	<p>伸筋腱中央索損傷の治療成績は必ずしも良いものではなく、可動域制限や伸展制限がしばしばみられます。</p> <p>また、屈筋腱損傷や骨折、靭帯損傷、隣接指の損傷などを合併することも多いとされています。</p> <p>これらの合併損傷が伸筋腱中央索損傷の機能予後に対する影響を当院の電子カルテシステムより情報を収集して検討します。</p> <p>この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	<p>2009年 4月 1日 より</p> <p>2017年 6月31日 まで</p>
研究対象	<p>上記の期間に当院整形外科にて、伸筋腱中央索損傷の初回治療を行いました18歳以上の患者様が対象となります。</p>